

桃花源記（現代語訳）

晋の太元年間のこと、武陵の人で、魚捕りを業とする人がいた。（ある日）谷川に沿って船を進めていくうちに、どれほどの道のりを来たのかわからなくなってしまうた。ふと思いがけなく桃の花の林に出あった。川を挟んで両岸の数百歩の間、中には桃以外の木はない。かぐわしい草が色鮮やかに美しく茂り、桃の花びらがひらひらと乱れ散っていた。漁師はこれをたいそうふしぎに思った。（そこで）さらに船を進めて、その林を見きわめようとした。やがて林が切れた所に水源があり、すぐそこに一つの山があった。山には小さな洞穴があり、（山の入り口の方から）ぼんやりと光が差しているようである。そこで船を乗り捨てて、穴の口から入っていった。

初めは大変狭く、やっと人が一人通れるほどだった。さらに数十歩ほど進むと、ぱっと目の前が開けて明るい所に出た。土地は平らで広々としており、家々はきちんと整っている。よく手入れされた畑、立派な池、桑畑や竹林の類があった。田のあぜ道は四方に行き交い、あちこちから鶏や犬の鳴き声が聞こえてくる。その中を（人々が）行き来し、種まきや耕作をしている。男女の服装は、全く異なる世界の人のようであった。高齢のため髪が黄色くなった老人もおおげ髪の子どもも、皆なごやかにこにこしてみんな楽しげである。

（村人は）漁師を見ると非常に驚いて、どこから来たのかと尋ねた。（漁師は）こと細かに答えた。さっきくぜひにと迎えて家に連れ帰り、漁師のために酒の用意をし、鶏を殺し食事を調べてくれた。村中の人はこの人がいることを聞きつけると、皆やってきて挨拶をした。（そして、）自分たちのほうから言った、「私どもの先祖は、秦の時代の戦乱を逃れて、妻子や村人たちを引き連れ、この隔絶した場所にやってきて、決して外には出ませんでした。こうして外界の人とは縁が切れてしまいました。」と。（そして）「今はいったい何という時代でしょうか。」と尋ねる。なんと、（彼らは秦のすぐあとの）漢という王朝があったことさえ知らず、もちろん魏や晋のことはいうまでもない。この人は自分の聞き知っていることを一つ一つ詳しく彼らに説明してやった。（村人たちは）みんなため息をついて感じ入っている。他の人たちもそれぞれ（漁師を）案内して自分の家に招いて、皆酒食を出してもてなした。（漁師は）数日滞在した後、別れを告げた。この人たちは言った、「外の人たちにお話しになるには及びませんよ。」と。

（漁師は）やがて外界へ抜け出て、自分の船を見つけると、すぐもと来た道をたどりながら、要所要所に印をつけておいた。郡の役所のある町に着くと、郡の長官の所に参上して、事の次第を申し上げた。長官は直ちに人を遣わして、彼について行かせ、先に印をつけた所を探させたが、とうとう迷って二度と道を見いだせなかった。南陽の劉子驥は、俗世を去った高潔な人であった。この話を聞くと、喜び勇んで出かけようと企てた。（しかし）まだ実行しなかった。まもなく病気になるって死んだ。それから後は、とうとう桃花源へ行く渡し場を尋ねる者はいなかった。